

盆栽美術館とそのコレクション

大宮盆栽美術館は、盆栽芸術の中心にあります。1 世紀近くの間、日本盆栽業界の核を担ってきたコミュニティである大宮盆栽村の外れに、2010 年に開館しました。そこは、国内初の公営盆栽美術館です。同美術館が焦点を置くのは、21 世紀に向けて盆栽の重要性と関心の高さを可能な限り維持し、また盆栽の 1000 年にも及ぶ物語を語り継ぐ事です。

同美術館の建物は、伝統的日本人建築を現代的に再解釈したものです。ロビー内では、訪問客は英語を話せるスタッフによって迎えられ、そして英語、中国語、韓国語、日本語での利用が可能な音声ガイド（¥310）のオプションが提供されます。床から天井までの巨大な窓ガラスを通してそこから見えるのは、建物の前面にある優雅な盆栽庭園の景色です。ミュージアムショップでは、魅力的なお土産品を購入することができます。

コレクションギャラリーへと入場する前に、訪問客はプロローグエリアを通過します。ここでは、日本語と英語の両方で、また豊富な図付きのパネルで分かりやすく盆栽の基本情報が紹介されています。パネルには、使用される樹木の種類、それらが「作り込まれていく」いく造形、盆栽鑑賞を楽しむにはどうすればいいかななどの情報、そして水石と呼ばれる岩のような装飾用の石など、関わりのある道具に関する情報を学ぶことができます。

同館のコレクションは、日本全国からの最も重要な盆栽約 120 点を含みます。それらは、歴史や希少性、出所、独創性、そしてもちろん、盆栽の純粋な感動的美しさを基準に注意深く選ばれた盆栽です。それら多くは 1 世紀以上の樹齢となります。盆栽がそのような長い寿命を持てるという事実は、同美術館が計り知れないほど貴重な役割を担っていることを意味します。以前の所有者がこの世を去った後にも、同館は極めて特別なそれらの作品を管理し続けているのです。ここに保管されている受賞歴のある盆栽の一つは、日本の元首相 2 名を含む、一連の要人によって所有されていたものです。

メインギャラリーにはコレクションから 5 つの盆栽が展示されており、その内容は季節に配慮して毎週変えられています。それぞれの盆栽も、明るく趣のある照明の付いた、前方が開いた展示用の箱中の一つずつ収められています。これら箱のすりガラス製の壁は、半透明になっており、伝統的な障子の 21 世紀版を思わせます。

その次にあるのは、3 つの座敷飾り部屋です。このように、伝統的な日本の内装で盆栽がどのように飾られるのかを見られるのは、世界でここだけです。ここでも、各部屋に一つずつ設置される盆栽は毎週変更されています。ここから訪問客は、多くの人にとって美術館の目玉となる、屋外の盆栽園へと進みます。そこにはさらに 60 ほどの盆栽が展示されています。2 階の盆栽テラスから、同園の広大な全景を見渡す機会をお見逃しないうご注意ください。盆栽庭園の東側には、定期的に企画が変更される展示室が

あります。そこでは、盆栽の歴史と隣接する大宮盆栽村について取り扱っています。